1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070501240		
法人名	社会福祉法人 愛光会		
事業所名	グループホーム愛の里にった		
所在地	群馬県太田市新田市野井町145-1		
自己評価作成日	平成22年9月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http:/	//www.kaigo-	ioho.pref.	gunma. ip/	

【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構	
所在地	群馬県前橋市新前橋町130-11	
訪問調査日	平成22年9月29日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1、その人らしさの実現をまず重視しています。
- 2、理念にもあるように、地域とともに過ごせるよう、入居者と共に地域のスーパーや近所の方との挨拶を大切にしています。
- 3、外部からの慰問受け入れや事業所から関連施設への慰問見学やイベント参加など積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の方が住んでいた町や思い出の場所へサービス利用後も訪れることを支援し、それまでのその方の人生、生活歴を大切にすることの重要性を理解し実践活動を行っている。また、地域とのかかわりを持つことの重要性を十分に理解し、そのうえで、他機関、近隣住民に対する積極的なアプローチを行っている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します 取り組みの成果 取り組みの成果 項目 項目 ↓該当するものに〇印 ↓該当するものに〇印 1. ほぼ全ての利用者の 1. ほぼ全ての家族と |職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 2. 利用者の2/3くらいの めていることをよく聴いており、信頼関係ができ 2. 家族の2/3くらいと 56 を掴んでいる 63 3. 利用者の1/3くらいの ている 3. 家族の1/3くらいと (参考項目:23.24.25) 4. ほとんど掴んでいない (参考項目:9.10.19) 4. ほとんどできていない 1. 毎日ある 1. ほぼ毎日のように 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 2. 数日に1回程度ある 2. 数日に1回程度 57 がある 64 域の人々が訪ねて来ている 3. たまにある O 3. たまに (参考項目:18.38) (参考項目:2.20) 4. ほとんどない 4. ほとんどない 1. ほぼ全ての利用者が 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている |係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 2. 利用者の2/3くらいが (参考項目:38) 3. 利用者の1/3くらいが の理解者や応援者が増えている 3. あまり増えていない 4. ほとんどいない (参考項目:4) 4. 全くいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての職員が 利用者は、職員が支援することで生き生きした 2. 利用者の2/3くらいが 職員は、活き活きと働けている 2. 職員の2/3くらいが 66 59 表情や姿がみられている 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:11.12) 3. 職員の1/3くらいが (参考項目:36.37) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての利用者が 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 2. 利用者の2/3くらいが 2. 利用者の2/3くらいが 60 る 67 足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:49) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての家族等が 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお 2. 家族等の2/3くらいが 2. 利用者の2/3くらいが 61 く過ごせている 68 おむね満足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが (参考項目:30.31) 4. ほとんどいない 4. ほとんどできていない 1. ほぼ全ての利用者が

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

自	外	D	自己評価	外部評価	
三	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.E	里念し	- 基づく運営			
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	法人理念の社内研修を行い、法人理念に基づいたグループホームの理念を共有して、実践している。	法人理念は、地域に根付いたケアの提供を掲げている。 法人の理念を基盤に、グループホームでは「ご家族、ご 利用者、地域の方に信頼を与えるケアを」と理念に示し ている。この理念はスタッフと共に話し合い作り上げたも のであり、新人研修等で管理者が理念について説明し、 共有してケアできるよう努めている。	地域密着型サービスとして、法人の理念を土台として、より一層具体的な理念を作り上げている。これらを真にサービスとして利用者、家族へ提供するために、一人ひとりの職員が理解、共通の理解を得て活動されること一層期待したい。
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	ん作りを、ご近所の方に教えていただきながら、利用者 と一緒に楽しんだりしている。利用者が散歩に出たとき	近隣の保育園児や中学校生徒との交流は以前からあり、散歩の際に近所の方と会話をしたり、野菜をいただくなどのつながりを大切にしている。また、ホームから区長に住民とのかかわりを増やしていきたい意向や、隣組への参加意思を伝えている。現状として自治会に参加していないが回覧板をまわしてもらう、行事を教えてもらうといった形で地域の一員となっている。	つもたれつの関係性の構築を地域住民、組織と
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	運営推進会議の中で、区長や民生委員にグループホームの活動や、短時間で行える認知症の基礎知識を理解してもらい、地域の方々にも繋げてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	運営推進会議は、区長、民生委員、市の担当者、家族 代表と家族が出席し、、2ヶ月に1回開催している。日頃 の活動報告を始め、認知症に関する勉強会、家族との 意見交換、また実地指導や外部評価の結果を伝え、参 考意見を聴取したりしている。	運営推進会議は2ヶ月に一度、区長、民生委員、市の担当者、参加できる家族が参加し、ホームの近況報告やその時に合った議題や報告を決めて話し合い、意見交換している。外部評価等結果の報告を通じて、参加者からの意見と検討材料としている。	を活用し、ホームのサービス内容、またその向
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市の職員にも参加してもらい、必要に応じて意見を述べてもらっている。また、市から依頼の調査にも積極的に返答するようにしている。入居者がボランティアで近隣の公園の掃除を行う取り組みを開始し、市と連携を図りながら行っています。		
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する社内研修や伝達講習を行い、またホームの方針として、鍵をかけないケアを行っている。 居室の鍵を自ら管理している利用者もいる。玄関は日中施錠せず、ホーム外への徘徊のある利用者には職員が一緒に出かけ、気の済むまで付き添って歩くように支援している。また、併設の施設職員とも連携し、見守りを実施している。	玄関はチャイムがあり、利用者が無断で出かけた場合、 日中は併設の特別養護老人ホームの職員にも気にかけ てもらったり、見守って対応している。施錠以外の身体拘 東についても、居室位置の変更や観察しやすい場所で の見守りで対応している。年に一度は身体拘束に関する 勉強会を実施している。	
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	人権擁護・虐待防止に関する社内研修や伝達講習を行い、日々の支援の中ではその行為が虐待にあたるか常に考えながら、支援にあたっている。		

自	外	77 D	自己評価	外部評価	T
三	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	管理者やケアマネが資料を提供し、今後は職員全体に 理解を広め、必要に応じ、家族や相談者にアドバイスし ていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	可能な限り、事前に本人や家族に施設見学をしてもらい、料金説明、グループホームの趣旨を理解していただいている。契約時の説明は60~90分かけて管理者が行っており、契約書や重要事項の説明を行っている。また、改定時等は書面で説明し、同意してもらっている。		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	接遇改善の提案書をグループホーム会議で話し合い、 検討して知識、対応の統一化を図っている。苦情箱を玄 関に設置し「どんなことでも意見をもらいたい」としてい る。意見や要望は家族が個々に職員に伝えているが、 運営に関する意見などは特になく、利用者についてが ほとんどで、伝えられた内容を会議で検討し、早期に対 応している。	苦情箱を設置しているが、運営に関する意見はなく、職員が個々の家族から直接意見、要望をきいている。その意見の中で職員の対応の統一化や緊急性の高いものは、「接遇改善の提案書」の書式記録に残して共有していくよう努めている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に3回の面接を行い、個々の職員の希望や悩みを 聞き、運営者へ上げている。	職員は個人的な意見、運営に対しての意見等がある場合、まず介護リーダーに話し、検討してもらえるシステムがある。	
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	法人内の人事考課制度を活用し、個々の努力、実績等 を把握して、上司が評価できるようにしている。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	人事考課制度を活用し、個々の職員の能力に応じて、 目標を設定し育成している。また、毎月1回法人内研修 を開催し、職員全員が出席して倫理、法令、プライバ シー等の研修を行っている。また、法人内で研修委員 会を立ち上げ、メール等で情報を共有でき、法人内外研 修にも積極的に参加できている。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	施設見学や施設職員交換研修等で同業者と交流し、その成果をケアスタッフ会議等で報告・発表している。水平展開することで、職員の知識向上に繋がっている。		

自	外		自己評価	外部評価	m
巨	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II . <u>5</u> 15	えいと	- 信頼に向けた関係づくりと支援 ○初期に築く本人との信頼関係			
		サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメントをもとに、職員が本人と向き合い、不 安なことや要望に応えられるように努力している。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	施設を見学していただき、説明によって入居の生活をイメージした上で、不安や質問に1時間ほどかけて対応している。		
17			共同生活が適しているのか、別の施設が合っているのかも対応に努め、必要に応じて他のサービスの紹介もさせてもらう。		
18		暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のことや経験のないことを利用者から教えていただいたり、言葉遣いにも注意しながら共に作業を行っている。お茶や食事の時間は、一緒におしゃべりをしながらゆったりとくつろいで過ごしている。お米とぎや盛り付けなどできることは、「一緒にして頂いていいですか」「お願いします」と声をかけている。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	最初の説明で、認知症のケアは家族の協力が不可欠であるということを説明して、利用者の精神状態を見ながら面会や外出をお願いしている。面会時には利用者を交えて会話ができるように配慮している。		
20			近隣の町で育ち移ってきた方には、その町へ花見やドライブ、買い物等にも出かけ昔の記憶に繋げている。また、利用者の友人や親類の方の面会時にも、職員が間に入り、次回の面会へ繋げられるようにしている。	してもらったり、以削行っていたクフントコルノ仲間の米	
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにある丸テーブルの利点を活かし、お互いの顔を見ながら歌をうたったり、アルバムを見たり、紙芝居を聞いたりしている。距離が近すぎて口論となってしまったときは、職員が間に入り、気分を切り替えられるように支援している。また、花壇や畑など草むしりや土いじりを皆で行う等している。		

自	外		自己評価	外部評価	T
巨	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年はないが、移動された先の施設に利用者と共に会 いに行く等している。		
Ш.	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人ひとりの思いや希望を把握し尊重するケアに努め、見守りや声かけをしている。聴力や言語に問題のある利用者、意思表示が困難な利用者には、一緒に時間	いる。また、表情や本人のちょっとした発言が重要な場合	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	家族からのききとりと利用者とのコミュニケーションをより多く図ることで、把握し、アセスメントに反映させて、個別のケアを目指している。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ケース記録に1日の過ごし方を記録し、生活の流れを把握したり、日誌で申し送る事で利用者の現状(心身状況や力量)を知り、それぞれの役割りをお願いしている。		
26		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	家族の面会時に利用者の日頃の生活の様子を伝え、 家族の意見や希望を伺っている。内容は掲示板や日誌 で回覧している。また、介護計画は定期的および随時 に本人・家族と相談しながら、作成している。	利用者ひとりづつ担当職員が1ヶ月のケアがどのように行われたかモニタリングを行っている。通常変化がなければ6ヶ月に一度介護計画は見直し、月に一度のカンファレンスで職員で話し合い立案している。ただし状態の急な変化で計画変更する場合は、随時話し合い変更している。	
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づくケース記録は毎月、全員で目をとお して個々のケアの方向性を共有し対応している。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前併設していた通所サービスのホールを活用して、利用者と家族が一緒に食事をとれるスペースにしている。和室には家族の宿泊ができるようになっている。新聞等の情報から、要望に応じて季節の花を見に出かけたり、2~3ヶ月に1回程度外食など、希望に合わせて外出も支援している。		

自	外		自己評価	外部評価	西
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や演奏の慰問や散髪ボランティア等の受け入れも行い、転倒予防教室参加や定期的に図書館等にも行っている。また、書くことの好きな利用者は行政センターのボールペン講座へ参加した。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	【受診する際にも、家族の意向を確認している。ホ−ム協力	かかりつけ医は家族の意向に沿って決めることができる。またホームの協力医には1ヶ月に一度定期検診と内服処方をしてもらい、その際は通院介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームの看護職が利用者の様子をうかがいに来てくれる。医療面だけでなく食事面を含め、アドバイスをもらいながら、ケアの方向性を決めている。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院の際は、家族の同意を得て、できるかぎり立会いできるようにしている。また、入院中は職員が訪問して、ホームでの生活の様子を伝えたり、利用者の状態を確認させてもらい、家族や看護師、必要に応じて担当医からも話を伺うようにしている。		
33		〇重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	ホームでの終末期ケアは、今まで1名の入居者に対応した。医療の必要度が増した時点で、療養方針を家族と相談している。協力医療機関から往診があり、家族に頻繁に情報を提供して、面会者を含めて職員全員で方針を共有して対応している。		各該当者とのかかわりを通じて蓄積された対応 方法を基盤に、共有された方針、方向性を示さ れることを期待したい。
34		〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	その時々の状態で変化を予測し、急変時の対応を日頃から話し合っている。また、社内研修の中でも緊急時の対応方法を学んだり、消防による救命救急の講習にも参加している。		
35		〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、ホーム内に掲示している。また、運営推進会議では区長や地域の方に避難の協力をお願いしている。定期的な避難訓練を隣接の特別養護老人ホームと合同で行い、協力態勢を強化している。	併設の特別養護老人ホームと合同で、年2回消防署の立ち会いの下避難訓練を実施している。また、近隣者や区長、民生委員にも協力依頼しており、職員の避難時の役割や利用者の身体状況を考慮した独自の避難時の注意点を確認している。	

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. 36	(14)	人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	が用名のグライバグ 唯体に関する性的的修を刊い、	外部講師を招いて接遇研修を実施している。個人情報や 記録物は、事務所に保管し管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	できる限り選択肢を提案し、利用者に選んでいただくことによって前へ進むことを基本としている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの方針として、その人らしさを大切にした支援に 心がけ、基本的な日課は定めているがそれに捉われる ことなく、その日の天候、利用者の体調や希望に沿った 過ごし方をしている。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	本人の希望によって美容院へ行ったり、また、希望によりスタッフやボランティアが散髪している。常時、清潔を含め身だしなみを整えるように支援している。洋服選びも一緒にしている。外出や行事の女性利用者にはお化粧の支援もすることもある。男性は無精ひげにも気をつけている。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食からの健康に留意し、基本的な献立は法人の栄養士が作成している。楽しくおいしく食べることをモットーに、料理に合わせた食器を選んで使用している。毎食職員が一緒に食事をしながら、必要に応じて介助を行っている。後片付けは、利用者が自分の仕事として無理なく協力できるようにしている。	き、利用者が食べたいものが作れるよう支援している。 基本的には装養士の作成した献立内容の食事だが、毎 金融昌は一緒に含べている。また、利用者自らに付けた	
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に 応じた支援をしている	高リスクの方は日誌に記録し、スタッフ全員で情報の共有 化を図っている。低リスクの方はケース記録へ記録し、 変化を分析し対応している。安定している方は毎月の 体重測定の推移で観察している。必要に応じて嗜好に 合わせた代替食や粥食を提供している。		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	看護師や歯科医の研修・指導のもと、利用者の個々の 能力に応じて、声かけを行い、必要によっては介助しな がら、口腔ケアを行っている。		

自	外		自己評価	外部評価	т
三	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握して予測し、より良い状態を維持できるように支援している。本人の意志を尊重 し、危険のないようにケアしている。	利用者の排泄能力を把握するため、昼間は特にトイレへの声かけや誘導を実施してパターンを掴んでいる。利用者の能力や意欲も加味した上で、排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	かかりつけ医や看護師に相談し、連携を取りながら、食品を中心に運動やマッサージ、補助薬で排便コントロールすることを優先順位として支援している。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者がそれぞれ週2~3回はゆっくりと入浴できるように、1日2~3名を目安として大まかに予定を立て、毎日午前と午後に準備をして、利用者のその日の気分に合わせて対応している。季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯などを楽しみ、好みに応じた入浴剤も使用している。	一人ひとりが入浴をゆっくりと楽しめることを目的に、1日に数名が入るよう日にちを決めている。しかし、希望があれば入浴日以外にも入ることができるなど、個別的な対応がなされている。	
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠されることを基本において、食後の休憩や昼 寝の時間等配慮して対応している。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬管理ファイルを作成し、全員で把握している。また、健康記録表があり、確認しやすいようスタッフルームで管理している。アセスメント見直し時に必ず確認することで、理解できている。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からききとりを生活カルテやアセスメントシートに記入し、それを参考にして、編み物をしたり、寺や神社にお参りに行ったり、畑で野菜を作る支援をしたり、家族や友人に手紙や電話をする支援を行い、それぞれが楽しみごとを持てるように支援している。利用者と一緒に畑で野菜を栽培し、収穫した野菜で季節感のある料理を楽しんでいる。		
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期や時間を見計らって、職員から散歩や 買い物に誘うなど外出の選択肢を提供している。通常 の散歩以外にも、四季を通して季節を感じられるような 外出の機会を支援している。急な希望であっても添える ように努めている。家族の面会や外出を希望される利 用者には、家族に電話でお願いしたりしている。	その日の身体状況や気候に応じて散歩や買い物に出かける等日常的な戸外への支援に努めている。入居者の生まれ育った町にドライブがてら買い物へ出かけたりするなど、その人の生活歴とその人たる背景を大切にした支援に取り組んでいる。	

自	外		自己評価	外部評価	
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所の契約の際、現金所持について本人と家族ヘプラス面とマイナス面の説明をして、納得のもと特に制限はなく所持していただいている。居室で数える楽しみやお買い物する楽しみ、購入することの想像力の維持等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	事務室の電話は、本人の希望により使用でき、必要に応じてスタッフが支援している。贈り物のお礼の電話等本人にかけていただけるようにしている。居室に電話設置することも実費で可能である。手紙も便箋を購入したり、ポストへ投函するため一緒にでかけたりしている。		
52		〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や人形、絵画、写真等、季節の模様替えを行い、利用者が生活者として心地よく暮らせるように工夫している。食堂ホールや廊下などの共有スペースは床暖房を取り入れ、大きく設置された天窓には夏はカーテンを掛けて光を調節しているホームの中庭には一年を通して様々な花が見られるように利用者と一緒に手入れしている。	る。そこには入居者が集い、ゆっくりとした時間、かつそれぞれのペースで時間を過ごしている様子がうかがえ	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	ウッドデッキや和室、デイのホール、ソファ、玄関のベンチ、駐車場のヘンチなど、個々の状況に合わせ、いつもの居場所とは違った場所で過ごせるようになっている。天候不良の日でも身体を動かし、危険のないようにホーム内を回ることができるよう、なるべく広いスペースを確保している。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	田のもてものでもてし珊般いただキ 甘木めに怯たこれ	居室に持ち込みの制限等はなく、それぞれの居室には 外出時の写真や、自ら作った作品等が思い思いに飾ら れており、自分の好みに応じた居室となっている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	居室ではベッドの位置やベッド柵の位置、タンスの配置 等を考えている。また、ホールではテーブルの位置、椅 子の高さ、使いやすさ、好みなど利用者の状況や動線 等、安全であるようにも考慮して決めている。		